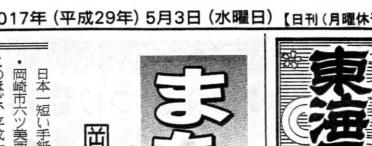
印在通信から見た活動の

在通信如公見行活動的樂人





岡崎 作左の会が活動記録まとめる

後世にまちおこしを引き継ぐための貴重な資料になっている。 作左通信から見た活動の歩み」を刊行した。十七年間の活動記録が詰まった一冊は、 このほど、平成十二年から会員向けに発行してきた広報紙「作左通信」をまとめた冊子 岡崎市六ツ美西部学区の住民らで組織するまちおこし団体「一筆啓上・作左の会」が 日本一短い手紙で知られる戦国武将本多作左衛門重次(一五二九一九六年)の生誕地 (竹内雅紀)

コラムを追加

十二月に結成。

せ」を妻に送り、家族 仙泣かすな 馬肥や 筆啓上 火の用心 お は日本一短い手紙「 戦(一五七五年)時に 格の一方で、長篠の合 を思いやる人情味豊か 仕えた武将。剛直な性 な人物として評価され 重次は松平清康、広 徳川家康の三代に としての要素が強かっ たが、バックナンバー たため、今回は編集委 の作左通信を冊子化し には、第三十八号まで し続けている。二十年 で年六回のペースで出

信は翌十二年二月に第 作左通 現在ま とともに「コラム」と 日現在、個人百八、 いう形で掲載した。 の一覧、俳句、短歌を 募集する「ふるさと 会員数の推移(五月 人三十五)や歴代役 また、資料編として 研修旅行・講演会 法

百二十八公。

兵藤会

五百円~ する。『

百冊作成

も載せた。 た」と思いを語る。 れまで頑張ってきた人 之会長(き)は「六ツ美 の思いを残したかっ 点を知ってもらい、こ 副委員長の廣重敦さん 抵なことではない」、 めの一冊。継続は並大 活動を次世代に残すた 四部学区のまちおこし (五)は「作左の会の原 A 4 判 編集委員長の兵藤紀 一部カラー

賞」応募数の推移など

兵務さん(右)と賽重さん= 岡崎市赤渋町で 「作左通信から見た活動の歩み」をPRする をしのび、

生かそうと平式十一年一や苦労話、カラー写真 地域振興に 重次の人柄 時の関係者の思い出話 号 (今年二月発行) ま 取り組んだ。第八十二 員会を設けて本格的に 節目の出来事などを当 での作左通信に加え、

同会は、

〒444-0852 岡崎市南明大号 館 話 0564-51-FAX 0564-51-Eメ-ル tokai-a@m2.catvmi http://home1.catvmics.ne.jp/